

素流協 News

平成18年12月25日
第26・27号

平成18年12月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6 電話 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533

平成十八年度 第三回県産材 利用拡大推進需給協議会開催

本年度三回目の県産材利用拡大推進需給協議会を12月11日午後1時30分から盛岡市菜園の農林会館会議室で開催された。

開会に当たり、下山裕司協議会長（県素流協理事長）は本年度三回目の協議会開催を宣言し、各議題について各委員並びに事務局等からそれぞれ説明・報告をいただいた後、各委員のご意見等をお聞きしたいとあいさつした。続いて議題審議に入った。各委員からの報告概要は、以下のとおり。

○合板用県産材の供給量の実績推移と将来見通し

【事務局】
平成18年11月の出荷実績は、一、二、二一一㎡で今年6月の一二、七六八㎡に次ぐ過去二番目の実績となった。累計では、八七、〇六七㎡で昨年同月比29%の増となっている。

本年度の計画は、一三四、三〇〇㎡であり11月現在で進捗率は約65%。残り4ヶ月で四七、二三三㎡、月平均で約一一、八〇〇㎡出

荷すれば計画達成となる。

昨年の出荷傾向をみると、11月の進捗率は、ほぼ今年と同様の63%となっており、また、冬場における生産量が増える傾向にあること、残りのシステム販売分の在庫が約四、〇〇〇㎡あることなどから、ほぼ年間計画量は達成できるものとみている。

昨年と比較すると、ホクヨープライウッドの場合、昨年11月実績四一、七七二㎡に対し、今年は一五七、二三九㎡で37%増となっている。

る。北日本プライウッドは昨年11月の二五、五四四㎡に対し、今年は一、二九、八二八㎡で17%増である。

生産状況のなかで、特徴的なのは樹種構成で、ホクヨープライウッドはカラマツが26%、スギが57%、アカマツが17%で、昨年比べカラマツが増え、スギが減少している。システム販売の樹種はスギが主であるが、その数量を入れてもなおスギが減少している。組合員の出荷樹種構成を調べたところ、今年8月からスギ出荷が少なくなっており、その傾向が現在も続いている。

一方、北日本プライウッドの場合にはスギの量は落ちておらず、カラマツが11%、アカマツが9%、スギが80%となり、ほとんどがスギである。このように県北、県南によって樹種別出荷割合の違いが出てきている。

【組合員（県北）】

スギの出荷が減少しているのは原因がある。まず、スギの立木価格が安過ぎて山主が売りたいがらない。例えば、一町歩当たりカラ

マツが八〇万円だとすれば、山主にすればスギなら一〇〇万円は欲しいところだが実際はスギの方が安く六〇万円程度にしかならない」という現象があり、なかなか立木の売りが出ない。

全幹で集材すれば材積的にみて約25%のパルプ材用丸太が出てくるが、スギの場合はパルプ材価格が安過ぎてトラック代にもならない。ということではスギは今なかなか採算が取りにくい樹種になっている。

その反面、民有林はもちろん、国有林や県有林の公売でもスギ素材の予定価格を高く見る傾向にあるようだ。

このところ、製材所は丸太不足で4m材が高くなっている。そのためか多少の曲がり材でも引き取ってくれるようになった。この結果、合板工場向けは2m中心になっている。このように用材の荷動きが良好で、チップ用材も足りなくなり、チップ工場では土場在庫のない所も出てきている。

○合板用原木の輸入の現状と今後の見通し

【合板工場】
南洋材は、サラワクが出荷順調で現地工場も原木の積み増しをしている。PNG（パプアニューギニア）は、天候が悪く出荷状況は、順調ではない。カメレレなど植林木は先細り傾向である。

ロシア材はまだ本格的な生産ではない。中国の買いは依然として強く、一四〇ドル程度で推移するものと思われる。一方、ニュージールランド材は一二〇ドル程度であり、若干使いにくさはあるものの、シフトする動きは出てくるだろう。

ロシア材は例年今頃が価格のピークだが、なにしろ材が足りないため、国内製材ではタルキ類が不足し、高値となったため国産材のスティ製品にシフトしている向きもあるようだ。

○合板製品及び広域における合板用国産原木の需給動向について

【合板組合】

普通合板の国内生産量をみると、二〇〇六年の1月～10月は〇・二%とほぼ前年並みだったが、出荷量は、七・三%プラスで、このあたり今年1年合板が好調だった要因がある。

合板の主な需要先である住宅着工数の推移をみると、昨年の一・二万戸に対して今年は一・二六万戸とそれほど大きい伸びはない。今年前半の1月～6月に輸入量が減少したのが変動の1番の要因だった。7月からは価格も上がり7月～10月では前年比一二三%と挽回、1月～10月のトータルでは、一〇四・六%となった。10月の輸入量は48万3千m³とここ2年間で一番多い数量となり、南洋材合板については風向きが少し変わってきた。

一方、針葉樹構造用合板は、依然として好調で、工場は1～2週間の受注残を抱え、期末在庫量をみると1月からずっと前年比マイナスが続いている。

用途別の生産量をみると、主流

だったコンパネは全国で50万枚程度と減少し、24mm、28mmの針葉樹構造用合板、いわゆるネダノンが増えてきた。東北地方のネダノン生産量は右肩上がり、今年を生産量は国産材と輸入材のものを合わせて約1千万枚で前年比二三六%、国産材原木使用料は73万m³で同じく一三五%と伸びている。

ネダノンの生産量が伸びれば伸びるほど国産材が必要になる。ネダノンの需要拡大を目指し、平成16年度から始まった新流通の補助制度を使って宮城県では45分耐火の製品開発、岩手県では現在の壁パネルの壁倍率二・五を上回る在来工法用の大壁、真壁の倍率五・〇を取得した。

○合法性証明の取り組みについて

【事務局】

会員44名、賛助会員6名、合計50名中46名が素流協の認定を受け、4名が他団体の認定を受けている。伐採届けの管理を進めており、素流協に対する現在の約30%という

伐採届けの提出率を向上させて、合法証明の実効性を迅速に高めていきたい。

○国有林の「素材の安定供給システム販売」の進捗状況について

【事務局】

平成18年度の国有林システム販売契約状況は、当初計画一五、三〇〇m³に対し、12月8日現在の実績が一六、七六一m³計画消化率一〇九・五%で最終的には一八、五〇〇m³になる予定である。12月8日現在でホクヨープライウッド向けが四署で一〇、〇三五m³の実績、

北日本プライウッド向けが三署で六、七二六m³の実績となっている。

○木材の新しい総合利用システムモデル整備（新利用）について

【県】

林野庁が「木材の新しい総合利用システムモデル整備（新規）事業を計画し、木材利用及び木材産業体制の整備を図り、強い林業・木材産業づくり交付金」を設置することとしている。この事業実施に当たって注意しなければならぬ点がある。岩手県の場合、現状の交付金（新流通・木材の新しい

流通・加工システム）が整備事業として存在し、その交付金とこの新しい交付金（新利用・木材の新しい総合利用システムモデル）の間を明確に分けなければならない。

その区分を明確にする為にもマスタープラン（五年計画）を達成し、それ以上の事業（別の事業）をやるために「新利用」を導入していただきたい。また、機械の導入に関してもキツイ縛りがある。林野庁の考えでは、「その機械導入が本当に合板工場向けだけに使用される目的で導入されるのか？」など、実情とかけ離れている状況もあり、

そうした点については今後、もう少し協議が必要である。

【委員】

「新流通」と「新利用」の区分について、素流協は、「新流通」のマスタープラン（目標値…一三三、〇〇〇m³/年）を今年度で達成できる予定であり、「新流通」の事業は完了するとして区切りをつけていただき、今後は、「新利用」の整備事業で合板工場がこれよりも増して国産材を利用するシステムと、山元では高性能機械導入で適切に供給できるシステムを構築していただきたい。と要望した。

ヒロシの独白

『グローバリズム』考（其の一）



グローバリズムとかグローバリゼーションという言葉が使われだしてから久しいが、この言葉がいつ頃から使われ出して、それほどいう意味なのかということであ

る。これらの言葉が人の耳や眼に入り出したのは一九八〇年代であり、九〇年代に入ると世界を動かす鍵概念、すなわち世界の各国における社会・経済・生活・思想な

ど人間が生活していくために必要な事象・条件に関する諸々の基準や規格や様式等に強く影響を与える考え方として一つの大きな流れとなってきた。

そこで、これらの言葉の意味について私なりに理解しているところを述べると、グローバリズムとは、「情報流通や交通手段が発達し、経済活動の世界的な広がりによって世界は空間的にも時間的にも狭くなってきた。それと同時に世界の各国において互いの関係が密になりその関係を無視して自国のみではこの世界に存続し得なくなっ

できています。そこでこのような状況に対応するために経済は勿論のこと人間社会の取り決めや道徳までも世界一律の基準を作ろうとする考え方」である。また、グローバルゼーションについては、或るものの本によれば「個人、企業、団体等のそれぞれが、国内の範囲を超えて広く国際的に合理的な選択を求めて行動することによって各国にまたがった広い範囲の市場や流通網が発達し、そのような活動をを通じて自らの立場がそのネットワークに位置づけられていくという一連の過程をいうのである。それにともない、合理的な選択を求めるそれぞれ（個人や企業や団体等）の間の相互作用を容易にし、簡素化し、またそのリスクを最小にするために、規格や手続きを標準化する必要が生じ、国際的に認められたものをグローバル・スタンダードという」とある。

グローバルゼーションと似た言葉に「国際化」というのがあるが、かつては日本においてこの「国際

化」がスローガンのように猫も杓子も国際化、国際化と唱えられていた。しかし、グローバルゼーションは、国際化とは全く意味が異なるのである。当時日本で言われていた「国際化」は、政府の規制や社会的障害を少なくして外国からの流入を増やしたり、あるいはより多くの日本人や組織が海外で活動し、評価される、といったことを意味していた。つまり、あくまでも日本人とそれ以外という枠組みを保持した上で、量的に外国との交流が増えることが必要であると考えていたのである。ところが、グローバルゼーションの方は、国家自体の存在意義が限りなく消滅する方向に進むのである。

人によっては国際化の延長線上にグローバルゼーションが在るというかも知れないが、両者には明確な差異がある。端的に言えば、量と質の問題である。

国際化は、世界各国の間のモノ、カネ、ヒトの交流を盛んにすることによってそれぞれの国自体に大

アイドリング ストップに ご協力下さい

合板工場より、丸太搬入の際、アイドリングストップをお願いしたいとの連絡がありました。

つきましては、グラップルやユニックを使用していない時のトラックの駐停車時には、極力エンジンを止めるようお願いいたします。不必要なアイドリングを止めれば、燃料の節約ができ、排ガスも減らせます。

みなさんのご協力をよろしく申し上げます。

大きな影響を与えることになるが、グローバルゼーションによる質の変化には遠く及ばないし、グローバルゼーションはそれぞれの国の政治形態、独自の文化、社会規範等を大きく変質させて、究極的には世界各国があらゆる意味で均質化・画一化する方向に向かうことになるのである。そのような方向に容易に移行するかどうかは疑問のあるところであるが、もしも巷間に持て囃されている「グローバルゼーションの時代」となった時には、その時代に適合したルールや仕組みが重要になる。なぜならば、グローバルゼーションのもたらす質の変化は複雑かつ大がかりなものになるから、それらの変化に関する問題を処理し、解決を図っていくためにはルールが不可欠となる。

いま世界の現況を見ると、グローバルゼーション化の趨勢は明らかに下に見え、そのような状況下において、識者たちが言う健全なグローバルゼーションの進展

平成18年10月分の販売実績 (組合員からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷した組合員からの合板用丸太の10月の販売実績は下記の通りです。

昨年は10月から出荷が増加に転じましたが、今年度は8月から10月までほぼ同水準の出荷となり、ホクヨー4,816m³、北日本2,951m³となり2社合計で7,767m³にとどまりました。特に、スギの出荷が低調です。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎 %	樹種毎 長級毎 %
			m ³	m ³				
スギ	2.0	14上	1,320	1,218	2,538	22,933		58.2
	4.0	14上	1,120	907	2,027	16,484		41.8
	計		2,440	2,125	4,566	39,417	62.1	100.0
カラマツ	2.0	14上	1,200	535	1,735	14,287		99.2
	4.0	14上	9	2	11	115		0.8
	計		1,208	537	1,746	14,402	22.6	100.0
アカマツ	2.0	14上	1,070	247	1,317	8,827		88.1
	4.0	14上	97	41	138	1,192		11.9
	計		1,167	288	1,455	10,019	15.7	100.0
合計			4,816	2,951	7,767	63,838	100.0	100.0

平成18年10月分の販売実績 (国有林材システム販売からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷したシステム販売による合板用丸太の10月の販売実績は下記の通りです。

岩手県および青森県の森林管理署・支署から、ホクヨーへは2,249m³、北日本へは512m³となり、合わせて2,761m³となりました。各地の山元土場から、段取りよく出荷が続いております。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎 %
			m ³	m ³			
スギ	2.0	14上	1,894	505	2,399	9,303	84.4
カラマツ	2.0	14上	223	0	223	1,307	11.9
アカマツ	2.0	14上	133	7	140	409	3.7
合計			2,249	512	2,761	11,019	100.0

の前提となるルールとか手続きの構築はなされているのであろうか。もし未だ構築されていないとしたら、グローバルゼーションを十分に機能させるルールや手続きを誰が、どのようにして作るのか。またそのルールや手続きが作られたとして、それらの正当性を誰が、どのようにして証明するのか。

現在世界中でグローバルイズムの考え方が普遍化を進め、グローバルゼーションという社会・経済全般にわたった世界一律の基準作りが進んでいるように見える。以後機会を見ては、この独白欄において「グローバルイズム考」の続編を書いてみようと考えている。

落穂拾い

▽「ジョー・トリー」という名前を聞いてすぐに「NYヤンキースの現監督」とわかる人は、相当の大リーグ・ファンといえるかもしれない。この人が書いた「ジョーからの贈りもの」という本が出版されており、一読して大変面白い本であった。ゴジラこと松井秀喜

についても多くのページを割いているが、とくに筆者が感じ入ったことは、トリー監督の知識と経験に裏打ちされた貴重な人生訓が多く語られていることである。そのうちの一つに、「紳士たる者の第一の条件は、時間を大切にすることである」と言っているのだが、彼の若い頃より脳裏から片時も離れなことの金言「時間とは、消

平成18年11月分の販売実績 (組合員からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷した組合員からの合板用丸太の11月の販売実績は下記の通りです。

ホクヨー4,757m³、北日本3,913m³となり、2社合計で8,670m³が組合員より出荷されました。ホクヨー向けについては、スギの出荷が8月から2,000m³台で低迷しているため、全体の出荷量が伸び悩んでいますが、北日本向けに関しては過去2番目に多い出荷となりました。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎 %	樹種径級毎 %
			m ³	m ³				
スギ	2.0	14上	1,399	1,865	3,264	26,196		59.1
	4.0	14上	867	763	1,630	18,114		40.9
	計		2,266	2,628	4,894	44,310	62.1	100.0
カラマツ	2.0	14上	1,271	750	2,021	16,308		99.2
	4.0	14上	5	4	8	124		0.8
	計		1,276	753	2,029	16,431	22.7	100.0
アカマツ	2.0	14上	1,175	383	1,558	10,385		88.3
	4.0	14上	41	149	190	1,382		11.7
	計		1,216	532	1,747	11,767	16.2	100.0
合計			4,757	3,913	8,670	72,508	100.0	100.0

平成18年11月分の販売実績 (国有林材システム販売からの出荷分)

ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社に出荷したシステム販売による合板用丸太の11月の販売実績は下記の通りです。

岩手県および青森県の森林管理署・支署から、ホクヨーへは2,988m³、北日本へは552m³となり、合わせて今年度最高の3,541m³の出荷となりました。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合
			ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱			樹種毎 %
			m ³	m ³			
スギ	2.0	14上	2,431	457	2,888	12,191	83.7
カラマツ	2.0	14上	429	42	471	1,778	12.2
アカマツ	2.0	14上	128	54	182	590	4.1
合計			2,988	552	3,541	14,559	100.0

減するものなり。かくして、その罪は、我らにあり』を取り上げて、時間の大切さを述べている。少し長くなるが引用してみると、それぞれが目標を定めた時点から、それを達成するまでの時計の針が刻一刻と動き始める。取り戻すことのできない限られた時間の監督者となるのは、まぎれもなく自身である。その采配がうまくい

けば、おのずと目標達成への手応えは強く感じられる。消費される時間の量に正比例して、実りある知識や経験を蓄え、積み重ねていくことができるのである。また多くの場合、時間は他人との共有の上に成り立っている。何であれ、人との約束事にはタイムリミットがつきものだ。だからこそ、私は「約束＝契約」であると認識して

いる。たとえば、どんな些細な約束事でも、決しておろそかにしてはならない。＼というのである。時間そのものは、刻一刻と過ぎ去っていくものであるから、無駄・無為に時間を過ごすことは罪であり、とりわけ、時間は他人と共有する場が多いためから約束事の時間を厳守できない人間は、罪深いことであり紳士に値しないと決め付けて

いる。この中で特に面白かったのは、文中で松井秀喜のことをベタ褒めしているのだが、時間に関してだけは、「聞くところによると、読売巨人軍時代から時間には大らかだったそうだが、ヒデキの時間管理に関しては私も自信がない」とサジを投げ出したようなことを述べている。